

# 防災教育の支援事例（九州地方整備局筑後川河川事務所）

## ○支援の内容

- ・筑後川を題材とした防災学習プログラムの作成
- ・国土交通省が所有する災害に関する写真やデータの提供

## ○成果の活用

- ・教育委員会と連携・協働したことにより、市内の小学校への広報、積極的な活用の促進が図られた

## ■取り組みの背景

- 平成21年7月の中国・九州北部豪雨により、死者31名、負傷者46名、床上・床下浸水など12千戸を超す住家被害が発生
- 地域及び事務所内の防災意識が高まり、命を守る防災教育が求められていたため

## ■学校関係者へのアプローチ方法

- 従前から付き合いがあった教育委員会関係者、小学校教諭に協力して頂き、教育委員会、学校長等の学校教育関係者、NPO、防災士、河川事務所等により授業実施に向けた具体的な検討を開始

## ■活動のポイント

- 学校の先生が、「自然災害の防止」(小学5年生、社会科)の授業を行うにあたり、地域の災害履歴や写真等を活用することで、児童の理解向上を目指した
- 久留米市内の小学校で活用できるよう、
  - ・4時間で、各時間の学習内容や指導のポイントをまとめた「指導計画」を作成
  - ・各時間の配分時間、教師の発問や示す写真等を整理した「発問・板書計画」を作成
  - ・先生が行う授業に役立つ、より詳細な内容を整理した「解説書」を作成
- 家庭での取組に繋げて貰うため、保護者参観に合わせて授業を実施

## ■先生・保護者からの評価

- 豊富な資料、専門知識による授業は、児童の理解向上につながった
- 忙しい中でも、解説書等のおかげで楽に授業を実施できた
- 学校の授業で、防災教育をして貰えて良かった。親の勉強にもなった

